

病気に罪悪感を持たない

樋野興夫著

病気は人生の夏休みより

日本人の2人に1人ががんになる時代です。がんになるかならないかは確率の問題で、人は誰であっても平等にがんになる可能性があります。

病気になったことを「なんで自分なのか」と嘆いてみたり、「もっと前から健康に気を配っていたら……」

「あのときに先生の言う通り治療をしていればこんなことには……」などと後悔しても仕方がありません。

人生とは不条理なもの。

過去は振り返らない。

起こってしまったことは仕方がない。

病気になってしまったことに罪悪感を持たないでください。

いま必要なことは、不条理の中でどうやって生きていくのか、どこに生きがいや役割を見いだすかを考えることです。

